

若年性認知症セミナー

～認知症とともに希望をもって暮らせる「大阪」へ～

若年性認知症とは、65歳未満で発症する認知症です。高齢者の認知症とは違い、病気についての理解もあまり進んでいないことから、本人や周囲が異変に気付いても、「認知症」とは気付かず、診断までに時間がかかってしまうことも少なくありません。
認知症専門医や若年性認知症の当事者の声を通して、「若年性認知症」について考えてみませんか。
どなたでもご参加いただけますので、みなさま奮ってご参加ください！

日時：令和8年2月25日（水）

14:00～16:00（受付開始：13:30）

定員200名

参加費無料

会場：コミ協ひがしなり区民センター 6階 小ホール **事前申込制先着順**
（大阪市東成区大今里西3-2-17 大阪市東成区民センター）

プログラム

【第1部】基調講演

テーマ『知ってほしい若年性認知症の基礎知識』

講師：医療法人圓生会 松本診療所 ものわすれクリニック
理事長・院長 松本 一生 氏

～大阪で長年にわたり認知症の人と家族に多方面で寄り添い、支援者と共に支えている
松本医師が「若年性認知症について」わかりやすく解説します～



【第2部】トークセッション

※当日のご本人の体調により内容が変更となる場合もあります。

テーマ『心ゆたかに私らしく生きる』

～若年性認知症の当事者が語る「今」と「希望」～

登壇（当事者）：「おおさか希望大使」 森井 洋一郎 氏 他
進行：公益社団法人認知症の人と家族の会大阪府支部 副代表 中村 淳子 氏

～若年性認知症の当事者が「認知症になっても希望をもって自分らしく暮らすことができる」という思いを
自らの経験や今の活動を通じてお伝えします～

【主催】大阪府・大阪市

【後援】（公社）認知症の人と家族の会大阪府支部

【問い合わせ先】

大阪府 福祉部 高齢介護室介護支援課
認知症医介・連携グループ

☎：06-6941-0351 内線4497

お申込み方法については、裏面をご確認ください！

お申込み方法

お申込み方法は、「大阪府行政オンラインシステム」による**電子申請のみ**となります。

【申込締切】 令和8年2月19日（木）

※申込先着順。定員に達し次第締め切ります。

（手順）

①下記URLもしくは右の二次元コードから「大阪府行政オンラインシステム」にアクセス
URL : <https://lgpos.task-asp.net/cu/270008/ea/residents/portal/home>

②「申請できる手続き一覧」の「個人向け手続き」より「若年性認知症セミナー」を検索し、必要事項を入力をいただいたうえでお申込みください。

※セミナーを受講するにあたり、配慮が必要な方は、お申込みの際入力フォームにその旨ご記載ください。



会場までのアクセス

会場：コミ協ひがしなり区民センター 6階 小ホール

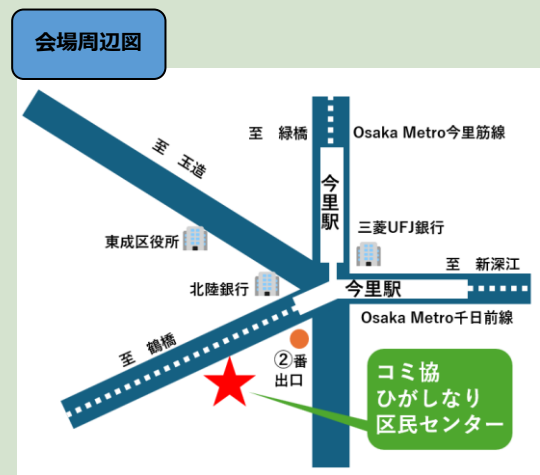
（所在地：大阪市東成区大今里西3-2-17 大阪市東成区民センター）

【公共交通機関でのご来館の場合】

- ・大阪メトロ千日前線・今里筋線「今里駅」下車
2番出口から西へ（徒歩約3分）
- ・エレベーターご利用の方
3番出口から「今里交差点（五叉路）」を渡り
西へ（徒歩約3分）

【車でご来館の場合】

- ・会場には**無料の駐車場はございません。**
近隣のコインパーキングをご利用ください。
- ・区民センターでのご利用またはご来場の目的のみで、
周辺の商業施設への駐車もご遠慮ください。



第2部「トークセッション」に登壇される「おおさか希望大使」のご紹介

【おおさか希望大使とは？】

「おおさか希望大使」とは、認知症になっても前向きに希望を持って暮らしていけることを自ら発信する、認知症ご本人の方のことで、現在4名の方が知事より委嘱を受け、ご活躍されています。

おおさか希望大使の紹介やPR動画のご視聴はこちら



◆森井 洋一郎（もりい よういちろう）さんのプロフィール

泉佐野市在住 63歳（令和7年9月委嘱時）

- ・アルツハイマー型 若年性認知症
- ・51歳の頃からもの忘れの症状があり、55歳で診断を受ける。
- ・56歳で会社を解雇されてから半年間閉じこもった時期もあるが、受診した4つ目の病院で信頼できる医師や支援者と出会い、その医師が勤める泉南市の白井病院で勤務。



◆氏名・非公表（女性）さんのプロフィール

堺市在住 57歳（令和7年9月委嘱時）

- ・アルツハイマー型 若年性認知症
- ・50代（4年程前）で字が書きにくくなり、手に不自由を感じる。勤務中、車の出庫で反対方向に進みおかしいと気づく。会社の産業医の勧めもあり受診にて診断される。
- ・会社の人、友達、子どもが小さい時から助け合ったママ友とお話するのが楽しみ。